包括的な学校改善の視点：学校マネジメント

包括的な学校改善の推進に向けた校長のマネジメント

中核校	小樽市立稲穂小学校	指定校	小樽市立花園小学校 小樽市立西陵中学校　小樽市立菁園中学校

■　構築した学校モデルの具体

○　学校経営ビジョンの共有と機能的・協働的な組織体制の確立

・年度当初に示すグランドデザインと学期ごとの重点施策により学校経営ビジョンの共有を図る。

・学校経営ビジョンに基づき、キャリア・パスポート（目指す子ども像）を柱としたカリキュラム・マネジメントの充実に取り組む。

・コアチームによる学校運営参画会議では、教育課程の進捗状況等について校長の諮問を受け、各分掌・各学年が PDCA サイクルを機能させながら教育活動の質の維持・向上に努める。

【学期ごとの重点施策を示した経営ビジョン】

○　育成すべき資質・能力を明確にした授業改革

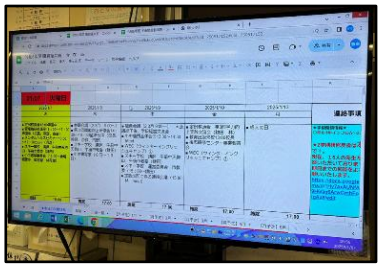
・各種調査結果から育成すべき資質・能力を明確にし、「主体性」をテーマとして、特別支援教育の視点や UDL、１人１台端末の利活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改革に取り組む。

・校内研修においては、新たな教師の学びの姿を目指し、一人一人が課題を設定して実践を重ね、多様性を大切にしながら対話を通して創り上げていく参画型研修とする。

○　ICT の活用による業務改善

・職員室大型モニターや職員間チャットによる情報の共有と一元化、ロケーションフリー環境、保護者連絡ツールの活用等、校内情報共有システムの構築に取り組む。

・事務職員による休暇処理簿システムや学校徴収金効率化ファイルの構築やサポート、AI を活用したシステム改善で、教頭をはじめ、全職員の業務効率化と負担軽減につなげる。



【大型モニターによる情報共有と一元化】

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

〔管理職の取組〕

・職場の<u>心理的安全性</u>を高め、定期的な職員面談等を通して、一人一人が自分のよさを生かしながら、課題や目標をもって教育活動に取り組むことができるように、適宜、指導助言を行った。

・働き方改革の方針として「業務効率化」「情報共有」「教頭業務支援」を示し、校内働き方推進委員会が中心となって、<u>一人一人が自分事として働き方改革を推進</u>する環境を整えた。

〔主幹及び事務職員、専科教員の取組〕

・主幹教諭が管理・提案する<u>分掌業務マネジメントシート</u>により、PDCA サイクルの活性化や職員会議の効率化等、円滑な学校運営につながった。

・事務職員の専門性を生かした<u>学校運営への主体的参画</u>や学校事務の共同実施を通じて、業務の一層の効率化や充実、<u>働きやすさ</u>を実感することができた。

・専科教員が、系統性や専門性、児童一人一人へのきめ細かな指導を行うことで、主体的に学ぶ児童の姿や<u>低位層の確実な学力定着</u>が見られた。

【分掌業務マネジメントシート】

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・年４回の地域協議会において、各学校の取組について協議・説明を行うとともに、教育局義務教育指導監より指導助言をいただき改善方策について共有を図った。

・専科教員による授業の参観等を通して、日常の授業改善や専科教員の活用について協議した。

・「学校における働き方改革に取り組む学校」として、小樽市教育実践事例集を作成した。